

2018年11月9日

報道関係各位

## 11月14日は世界糖尿病デー

ブルーライトアップや啓発イベント 全国 216ヶ所（過去最多）で実施

啓発テーマは「サルコペニア」

世界糖尿病デー実行委員会（一般社団法人日本糖尿病学会・公益社団法人日本糖尿病協会）は、11月14日の世界糖尿病デーに国内の著名な建造物をブルーにライトアップし、糖尿病の正しい知識を啓発するイベントを全国で実施します。

2016年（平成28年）国民健康・栄養調査によると、糖尿病患者数は推計で初めて1,000万人（前回調査比+50万人）を突破し、予備群を含めると2,000万人。成人の4人に1人は糖尿病ないしはその予備群という状況です（※1）。

超高齢社会にあって、糖尿病の啓発・治療の向上・療養指導の充実の結果、糖尿病患者の寿命も延伸し、現在患者の3分の2は高齢者です。したがって、これまでの生活習慣病対策だけでなく、高齢者は筋肉をしっかりと健康寿命を延伸させることが極めて重要になりました。特に高齢者では、年齢とともに筋肉が減少しますが、糖尿病ではこの現象が加速され、いわゆるサルコペニアフレイルの発症が多いことが明らかになっています。そこで、今年の世界糖尿病デーおよび全国糖尿病週間（11/12（月）～18（日））では、「サルコペニア」をテーマに啓発活動を展開することになりました。（※2）

今年は、過去最多となる全国216か所の有名建造物をブルーライトアップするとともに、サルコペニア予防に向けた食事と運動の重要性を啓発するイベントを各地で実施します。無料の血糖測定や健康相談、ウォーキングや講演会なども同時開催して、糖尿病患者さんや予備群、一般市民に向けて糖尿病の正しい知識を提供します。

（※1）平成28年国民健康・栄養調査／厚生労働省

（※2）サルコペニアの詳細については、日本糖尿病協会のHPをご覧ください。

「サルコペニアを知っていますか？」



## ■世界糖尿病デー関連データ■

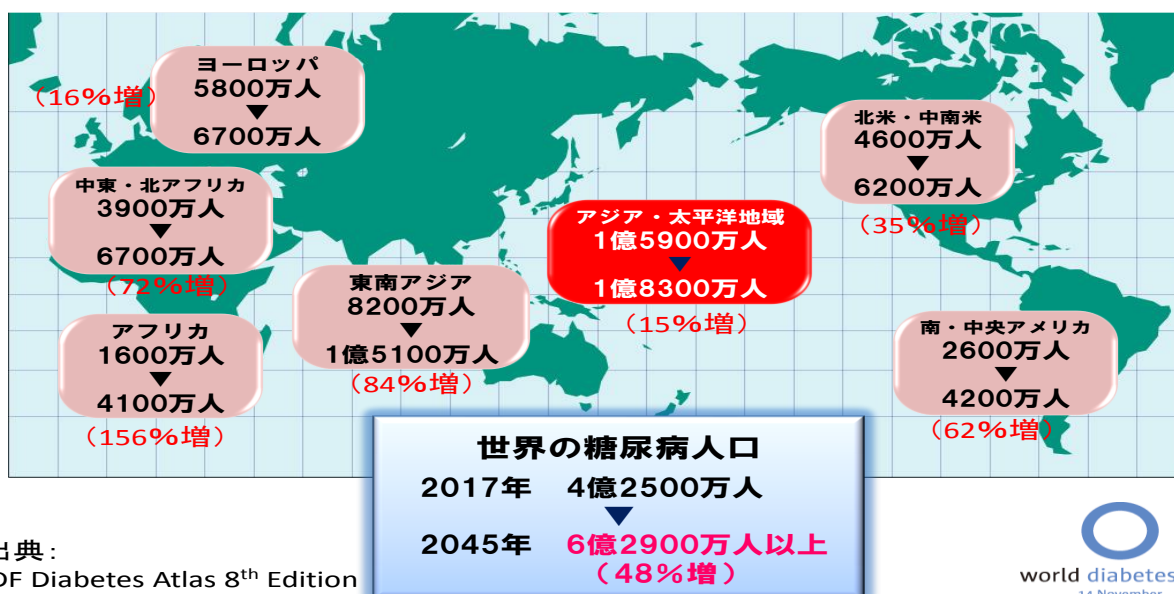
(出典:IDF Diabetes Atlas 8th Edition 2017)

糖尿病のデータ(20-79歳)	2017年	2045年
世界の有病率	8.8%	9.9%
糖尿病患者数	4億2500万人	6億2900万人
糖尿病での死亡数	400万人	
<b>耐糖能異常(予備群)</b>		
人口比	7.3%	8.3%
人数	3億5210万人	5億3160万人
<b>妊娠時の高血糖状態(20-49歳)</b>		
割合	16.2%	
影響を受ける出生数	2130万人(新生児6人に1人)	
<b>小児1型糖尿病(0-19歳)</b>		
1型糖尿病患者数	110万6500人	
毎年新たに診断される患者数	13万2600人	
<b>糖尿病関連の医療費(20-79歳)</b>	7270億USD/ 約83兆円	7760億USD/ 約88兆円

### <成人(20-79歳)糖尿病患者数 上位5カ国>

順位	国	2017年患者数	順位	国	2045年患者数
1	中国	1億1440万人	1	インド	1億3430人
2	インド	7290万人	2	中国	1億1198万人
3	アメリカ	3020万人	3	アメリカ	3560万人
4	ブラジル	1250万人	4	メキシコ	2180万人
5	メキシコ	1200万人	5	ブラジル	2030万人

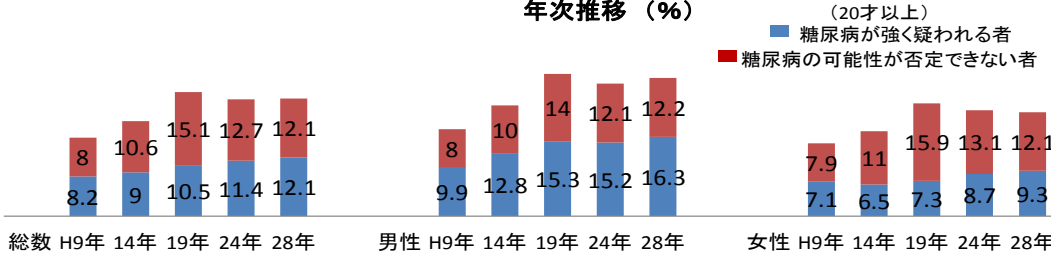
## 世界の糖尿病人口(2017年/2045年)



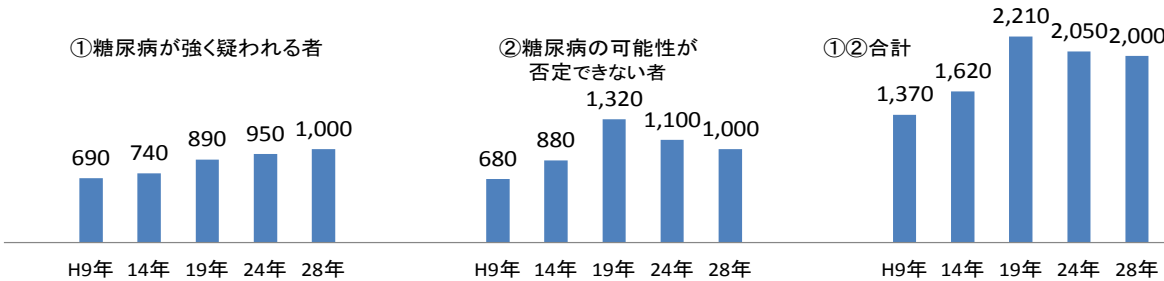
# 日本の糖尿病の現況

(厚生労働省:平成28年国民健康・栄養調査より)

「糖尿病が強く疑われる者」「糖尿病の可能性が否定できない者」の割合の年次推移 (%)



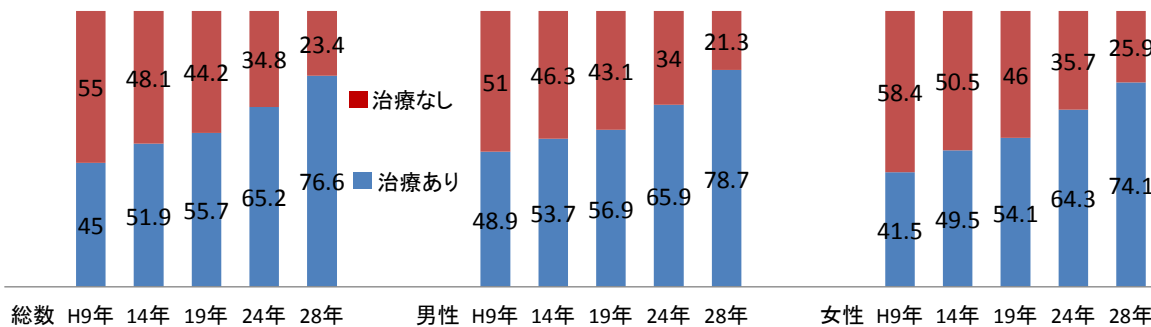
「糖尿病が強く疑われる者」「糖尿病の可能性が否定できない者」の推計人数の年次推移(万人)



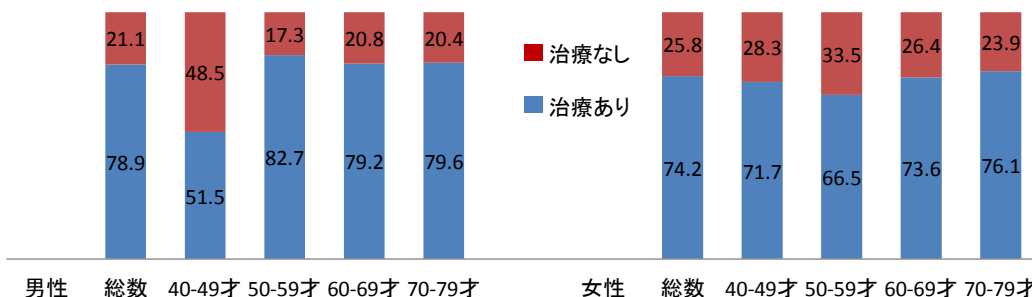
# 日本の糖尿病の現況

(厚生労働省:平成28年国民健康・栄養調査より)

「糖尿病が強く疑われる者」における治療状況の年次推移 (%)



「糖尿病が強く疑われる者」における治療の状況 (%) (40才以上、性・年齢階級別)



## 関連ウェブサイト■

IDF	<a href="http://www.idf.org/">http://www.idf.org/</a>
IDF Diabetes Atlas	<a href="http://www.diabetesatlas.org">http://www.diabetesatlas.org</a>
世界糖尿病デー実行委員会	<a href="http://www.wddj.or.jp/">http://www.wddj.or.jp/</a>
日本糖尿病協会	<a href="http://www.nittokyo.or.jp/">http://www.nittokyo.or.jp/</a>
日本糖尿病学会	<a href="http://www.jds.or.jp/">http://www.jds.or.jp/</a>
日本医師会	<a href="http://www.med.or.jp/">http://www.med.or.jp/</a>
日本歯科医師会	<a href="http://www.jda.or.jp/">http://www.jda.or.jp/</a>
日本糖尿病対策推進会議	<a href="http://www.med.or.jp/tounyoubyou/index.html">http://www.med.or.jp/tounyoubyou/index.html</a>
厚生労働省 国民健康・栄養調査	<a href="http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html">http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html</a>

### ★世界糖尿病デー（11月14日）の由来

1921年に糖尿病治療に必要なインスリンを発見したフレデリック・バンティング博士（カナダ／1891-1941）の誕生日。シンボルカラーのブルーは、国連色とどこまでも広がる青空の色から採用されました。2006年12月20日、国連総会において糖尿病の脅威に関する決議が採択され、（UN Resolution 61/225／United Nation）公式な国連デーとなりました。

### ★世界糖尿病デー実行委員会とは

2006年の国連決議を受けて、日本国内の糖尿病啓発を促進するために日本糖尿病協会と日本糖尿病学会により設立された任意団体です。世界糖尿病デーに関する国内の啓発活動を統括し、各地のブルーライトアップや地域密着型イベントに補助金を支出するほか、多様なメディアを利用して糖尿病啓発を行っています。

### ★IDFとは

International Diabetes Federation (IDF／国際糖尿病連合)は、165カ国・地域から240以上の糖尿病関連団体が参加する組織で、1950年から世界の糖尿病関連団体をリードし、増加する糖尿病患者とその予備群を支援する活動を展開しています。2006年の国連決議採択では、世界保健機関（WHO）とともに主導的な役割を果たしました。日本糖尿病学会・日本糖尿病協会もIDFの正会員です。

### ★IDF Diabetes Atlasとは

IDFが発行するDiabetes Atlasは、2000年に初版発行後、2年に一度、IDFと世界の専門家が協力し、糖尿病患者数、発症率、死亡率、世界・地域・国レベルの医療費支出などのデータを収録しています。最新は、2017年12月発行の第8版。

\*\*\*\*\*

#### ◇国内ブルーライトアップ、イベントに関するお問い合わせ先◇

公益社団法人日本糖尿病協会 事務局

〒102-0083 東京都千代田区麴町2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725

E-mail : office@nittokyo.or.jp